

豊野フットパスコース

自然の家から山崎橋～御手洗水源～浄水寺をまわるフットパスコース（約6km）。
森林や田園風景、古い街並みや史跡など地域にあるありのままの風景を楽しみながら歩く。

対象				時期				時間					
小学生以上				通年				3時間（昼食時間除く）					
期待される活動の効果													
思 考 力	判 断 力	表 現 力	能 力	シ ョ ン カ ン	コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン	体 力	生 命 の 尊 重	感 動 す る 心	知 識 ・ 技 能	協 調 性	主 体 性	問 題 解 決 力	課 題 発 見 力
○				○		○		○	○			○	○
準備物													
〔自然の家が準備できるもの〕						〔団体・利用者が準備するもの〕							
<input type="checkbox"/> 無線機 ※同行する職員が持っているもの <input type="checkbox"/> 無線機 <input type="checkbox"/> ハチ撃退スプレー <input type="checkbox"/> 救急セット <input type="checkbox"/> トイレットペーパー						<input type="checkbox"/> 長袖・長ズボンの動きやすい服装 <input type="checkbox"/> リュックサック <input type="checkbox"/> 水筒 <input type="checkbox"/> 軍手 <input type="checkbox"/> タオル <input type="checkbox"/> 救護車 <input type="checkbox"/> 救急箱							

【プログラムの流れ】

- 1 全員が集合のもと、自然の家職員より持参物の確認と活動の注意事項指導を行う。
- 2 参加者最終トイレ確認中、引率者と自然の家職員の打ち合わせ（無線機、救護車についてなど）
- 3 団体代表からの出発前の話（目的、目標など）
- 4 自然の家職員が先導して出発
- 5 山崎橋ポイントにて休憩（出発から約1時間）自然の家職員から石橋についての説明。
- 6 浄水寺跡ポイントにて休憩（出発から約2時間）自然の家職員から史跡についての説明。
- 7 その後は適宜休憩をとりながら到着（自然の家職員、団体代表よりまとめをして終了）

【活動の様子】



【活動の留意点】

- 石橋や史跡など歴史的に価値のあるものを傷つけないように注意する。
- 途中、車の往来が多い箇所があるので、注意が必要。
- 事前に下見や自然の家職員との打ち合わせをしっかりとっておく。



とよのフットパス

歴史文化財 説明用資料

＜山崎橋＞（宇城市有形文化財）



架橋：天保2年（1831年）⇒霊台橋（1847年）、通潤橋（1854年）
欄干（てすり）：慶応2年（1866年）⇒薩長同盟・徳川慶喜第15第将軍となる

【ポイント】

- ・昔の石橋には、欄干は無く、後から作られたものである。
- ・この橋を守るために近くに堰が作られている。豊野の人々は文化財を大切にしていた。堰を作りました記念の石碑もあるが、何で堰を作ったか、いくらかかったか書かれている。
- ・「車一切通るべからず」の石碑が現在も残っている。作った年も書いてある。
この橋は歩行者専用であり、その為にその前に通った「山崎橋」が車用に作られた。ここを取り壊して、新しくしない所に豊野町が文化財を大切にしていた証拠がある。
- ・橋の近くの木に「板碑（いたび）」と言われる仏様を祀った石碑がある。（1500年代）戦国の世の中で荒れていたため、こうして神に祈ったりしていた。
黒の線のような模様があり、これは豊野周辺の石の特徴（浄水寺にもある）。

【石橋の説明】

- ・この辺りは加工しやすく、カクカクの石が多かったため、石細工が盛んだった。
- ・名石工もたくさんおり、熊本初のアーチ式水路橋や、薩摩・東京にスカウトされる人も。
（雄亀滝橋・甲突川の五石橋：岩永三五郎）（浅草橋：橋本勘五郎）（通潤橋：布田保之助）

《作り方》

- ①支保工（しほこう）という木の土台を作り、その上に輪石（わいし）を置いていく。
- ②重心がちょうど真ん中にくるよう並べて、最後に要石（かなめいし）中央下の石を入れる。
- ③驚きは何もセメントなどの接着剤は使っていない！！
- ④その上に壁石をどんどん並べていき、欄干をつけたら完成。絶妙なバランスで立っている。

【楽しみ方】

- ・要石を探してみよう
- ・欄干の装飾を観察してみよう
- ・石碑の文字を読んでみよう
- ・木の中の板碑どうやってできたの？

とよのフットパス

歴史文化財 説明用資料

〈御手洗水源〉（熊本名水100選）



もともと浄水寺のあった場所から湧き出ていることから、「浄水寺の池」とも呼ばれる。

【ポイント】

- ・浄水寺の僧たちが衣を脱ぎ捨てて置いた「衣かけ石」という石が今でも残っている。

【楽しみ方】

- ・水が沸いているところを探そう
- ・布かけ石はどれだ
- ・水に触れてみよう

とよのフットパス

歴史文化財 説明用資料

＜浄水寺跡＞（熊本県指定史跡・熊本県重要文化財・宇城市天然記念物）



創建：奈良時代末期⇒未だその全容が明らかになっていない「幻の寺院」ともいわれる

開基：莽善(しょうぜん)大使⇒3 3 3 3段の上にある釈迦院の開祖

【ポイント】

- ・豊野町初の、国指定重要文化財である。
- ・各県で一番由緒正しきお寺は「国分寺」、浄水寺はそれに次ぐ県内第2位の由緒ある寺。
- ・入口に無患子（むくろじ）の木があり、宇城市の天然記念物となっている。
樹齢約350年でこの大きさは県内でも非常に珍しい。無患子の実は羽子板の羽根の黒い部分に使われている。「子が患わ無い」という意味で無病息災を祈って羽子板などをした。
- ・寺の奥には寺を建てるときに木を置く土台となる石の礎石（そせき）が置いてある。
現在の寺の礎石と大きさを比べたら、何倍にもなり、寺自体が大きかったということ。
礎石には木を置いた跡や、その為に削った跡がある。
- ・敷地内には西南戦争の慰霊碑や、愛子様の記念植樹があり、今でも地元の方が持ち回りで清掃などをしており、昔から豊野の人々は歴史を重んじてきた。

【石碑の説明】

- ・全国で23基（現存17）しかない、古代石碑（碑文が彫られた石）の内、4つがここ浄水寺にある。それぞれ別の場所にあった石碑をみんなで大切に守ろうと集め、屋根を付けて守った。
- ・南大門碑のそばには、「補修しましたよ」という意味を記した石碑もある。

《種類》

- ①南大門碑（790年）・・・莽善大使がこういう思いで作りましたよという記録
- ②寺領碑（823年）・・・寺の領土を示し、有佐や益城と書いてある。かなり広大。
- ③如法経碑（1064年）・・・仏の教えを写経したもの。黒の線がこの辺の石の証。
- ④灯籠竿碑（801年）・・・灯籠の石碑。

【楽しみ方】

- ・無患子の実を探してみよう
- ・礎石を観察して、昔の寺をイメージしてみよう
- ・石碑の文字を読んでみよう
- ・寺の敷地内で珍しいものを探してみよう